

特別企画

「社友会」

～創業の記憶をあらたにする人々～

創業の礎に携わっていただいた方々のご紹介

20年前の1996年、創業者の青木清志が初めて訪れた群馬の地で、飲料業界も製造業も初めての経験というとき、即戦力となる人材が欠かせなかった創業前に、生産、開発、品質管理、財務など、支えとなっていた方々がいらっしゃいました。今回はその創業の要となった方々をご紹介します。ハルナグループの歴史を語るうえで外せない貴重な存在です。20年を迎えた今、改めてこの方々へ心より御礼申し上げます。現在でも社友会メンバーとしてご交流をいただいております。今回はその中の5名の方からメッセージをいただきました。

思いもしなかった群馬へ、青木会長に惚れてお世話になった。社員も発展途上で、全社員のレベルアップが急務の会社で、基本に返り、工場管理を5Sの徹底から「隗より始めよ」の精神で臨み実践したことが、少しはお役に立ったのだろうか。

あれから20年、青木会長の「演出家的経営」のもと、人財が育ち、各人の能力を最大限生かし、有機的に結合させ、工場管理では「見える化」を実現し、中・長期ビジョンを確実に達成させている。正に隔世の感がある。

また、社員を大事にする社風のお蔭で傘寿の私が、今もスポーツジムを利用させていただいている。そこでの話だが、3基あるシャワーが、1基長く故障したままで不便している。店長が「1基だけの故障」と考えるか、顧客志向の我が社のように「3分の1の人に迷惑をかけている」と考えるかで対応の仕方が違ってくる。ヘボ碁打ちの私は「着眼大局、着手小局」を心がけているが、この例のように着眼点が問題だ。大局的な着眼で、着手は綿密な社員の集団になれば、さらなる20年磐石のものとなろう。昔の癖で説教で終わったが、好々爺(?)の戯言と流していただきたい。



菅谷 重信 様

名古屋大学卒業。日本コカ・コーラ株式会社では、大阪工場長、本社総務部部長、生産物流部長などを歴任。ハルナビパレッジでは、生産のトップとして生産管理本部長、取締役生産統括本部長を務めていただきました。また、社員教育にも一から取り組みをいただき、現在でもビジネススクール副理事長としてご協力をいただいております。

青木清志会長さんは、素晴らしい人生を過ごしているだけに仲間も素晴らしい。「上毛新聞」連載の「心の譜」を毎日読んでおりますが、大学入学以前からの苦しみを体験され、幅広い力をつける生きざまは、さすがです。人生を逞しく生き体験され怖いほどの実体験は、会長さんが普段から強く生き同時に仲間にも知恵を語り合う人生経験です。

貴社のスタッフは、専門知識と実践力を備えており、総合力をつけております。若い人たちの力をさらに高めましょう。「こんな難しいことはできない」ではなく、難しいから面白いがあると思うことでしょうか。多少の失敗を恐れずに挑戦させてください。失敗を恐れずに、失敗から学ぶことを繰り返すのが本物の力になるはず。いい仲間とは、磨いて成長を続け力になる。「夢なき者には理想なし」といいますが、成功ありません。夢をたくさん持ち、活躍を楽しみにしています。



高嶋 重皓 様

法政大学卒業後、群馬銀行支店長、群馬キャピタル取締役を歴任され、ハルナビパレッジでは取締役、経理財務の責任者としてご参画いただき、財務体制の基盤を構築されました。



創立20周年を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。企業の平均寿命は1世代30年～35年といわれている中で、ほぼ中間点に到達し、現時点では次なる世代への企業戦略の構築に勤んでおられることと推察しております。最近見聞する出来事で、最初は隣の経済大国での話かと思いましたが、さにあらず我が国における鉄道での検査データの改ざん、建築工事での基礎杭の不足、自動車での机上計算によるデータ作成、橋梁での現場確認不足により橋梁落下事故、など直接人間の命に関わる業種での事故、トラブルの発生がありました。技術立国日本としては、誠に恥ずべき内容であることは明々白々です。では「何故、このようなことが連続して生じるのか？」を考えると、1つには「技術」をないがしろにしていること。2つには「手間、暇」を削除していること。3つには自分の仕事に「誇りと責任」を感じていないこと。4つにはコンピューターは計算ミスをしなないと信じていること、などが挙げられます。当然、技術というものは長年にわたる経験則の積み重ねを文章化し、あるいは体に染み着いたものを後世に伝授していくことであり、新しい知見を発見するごとに文章の加筆、改正を継続していくものであります。手間と暇は現在進行中のものが正しいかどうかを考え直す時間であり、誇りと責任はいうまでもありません。昨今ではコンピューターが様々な条件設定の中で計算をし、答えを素早く算出してくれますが、その条件設定を入力する人間の方にある種の意図が隠されていると正直な機械を騙すこととなり、併せて消費者や社会を偽ることにつながっていきます。20年という節目は自分とその周囲、関係のある人々及び組織、環境を見直す良い時期であり、少し異なる角度から全体を見直す良い時期でもあります。少し別の角度から全体を「俯瞰」することで、それぞれの立場で次世代への道標みちしるべを示すことが大切と考えます。

跡田 潔 様

京都大学卒業後、大手乳業メーカーにて乳業部門に従事され、ハルナビパレレッジでは、ハルナビパレレッジ研究所代表取締役社長を歴任、創業当時から商品開発と品質管理をご担当いただきました。



苦米地 章 様

帯広畜産大学卒業後、大手乳業メーカーにて乳業部門に従事され、ハルナビパレレッジでは主に品質管理、商品開発、内部監査役を歴任。品質向上の立て役者として活躍されました。

20周年おめでとうございます。退職後6年が経ち、自由、気ままな日常に突然の原稿依頼での当惑と声をかけていただいたことに感謝しております。創業当時を思い出しても、現在の姿は想像できませんし、無我夢中の一言です。最近のうれしい出来事は、3月28日に前橋のスポーツジムで、突然「お久しぶりです。お元気そうで」と声をかけられたことです。タニガワ工場の社員で、ハルナグループの傘下に入り再出発したとき、応募者の面接、採用した一人でした。タニガワの創業に参画した苦勞が懐かしく思い出されます。ジムでは創業当時の仲間や顔見知りもあり、気軽にお話しもしていただけます。中には、何々工場の誰々です、と自己紹介してくれた社員もいて、その素直な優しさは、ハルナグループの社風が人間性に表れているからではないかと感じる出来事でした。最後にグループのますますの発展を祈念いたします。



森 久士 様

株式会社伊藤園の営業部部長を経て、ハルナビパレレッジへ入社。創業当時の品質管理と商品開発の担当として携わっていただきました。また、運輸倉庫の事業や人材派遣にも手腕を発揮していただき、現在でもハルナビパレレッジの営繕担当として活躍いただいています。

創業以来、足門工業団地で唯一緑地を新規に確保し、長く維持管理し、コミュニティーガーデンとし、地元の方々の利用も願っております。

また、隣接している唐沢川の利用者として、生産農業の方々と共に、河川敷等の清掃を行っております。地域環境保護の一環と思われまます。

また、下記のお二方も創業当時からご尽力いただきました。

小林 欣司 様

青山学院大学卒業後、群馬銀行支店長、群馬キャピタル取締役を経て、当社監査役として入社。群馬県内の企業や行政、大学関係者など多くの方々を紹介いただきました。

小松 隆之 様

創業当時の監査役としてご参画いただき、税理士でもいらっしゃるため、経営から財務経理など幅広く基盤を構築されご尽力をいただきました。